

9月3日(土)多文化ネットワークサロンにて「子どもの命が輝くために～性と生と食はつながっている～」助産師・思春期保健相談士の内田美智子さんによる子育て講演会がありました。

「子育ては楽しいですよ。命がけで産んだ子は命がけで育てませんか」という内容でした。

今でも年間30人以上のお母さんが出産で命をおとしています。だから出産は命がけです。そして出産や授乳はママにしかできない仕事です。安心して授乳・出産できるようにみんなで認め支え合う必要があります。そのために保育園があります。子は未来の宝です。

子どもの命をうばうもの・1～4歳では死因の一つに不慮の事故があります。だからこの時期はちょっとでも目をはなすと事故にあうのでちょっと目をはなさないでください。10～14歳になると死因の一つに自殺が入ってきます。15～19歳では1位が自殺で20代の死因の約半分は自殺です。20代と言えど何をしても楽しい時期です。その20代に死を選んでしまう子が多いです。

だから大人はどうすれば子どもたちが笑いながら過ごせるか考えるべきです。でも思春期は本当に難しい時期です。小学校高学年から中学生の中でも最も難しいのは中学生の時期です。そして中学高校を卒業すると大学生や専門学校生、社会人になっていく。この頃になると何を食べようが誰と付き合い合おうが誰にも何も言われぬ。すばらしい自由を手に入れる。規則もなければ守ってくれる人もいなくなる。その時にパートナーがいてもいなくても、育てている私たちがいなくなっても、守ってくれる人がいなくてもしっかり立って歩ける子に育てる、それが子育ての目標です。大切なのは楽しい記憶、愛された実感、成長に合わせた関わり。どんなに大切だと伝えても弁当や冷凍食品ばかり出されては大事にされている実感がわからない。冷凍食品を出してもいいですがどれぐらいの回数出すかが大事なのです。あるお母さんの話。赤ちゃんがもうすぐ生まれるその直前胎動がないことに気づきました。お腹の赤ちゃんは死んでいました。でも産まなければならない。必ず陣痛はくる。そして出てきた泣かない赤子を抱えても母は母。母は強くてやさしい。

目の前の命は奇跡のたまものです。赤ちゃんが大人の思い通りになるのはほんの少しの間。授かって産めて無事に抱けた、そんな幸せなことはないのです。

子どもの反抗期はいつまでもじゃない。子どもが小さい今だからこそできることがある。抱きしめるなら今。お風呂だって銭湯は異性の親とは7歳までしか一緒に入れない。夜寝るのも同じで時期がある。いつまでもじゃいけない。だからいま必要な関わりをする。大きくなってからうるさく言うのは羽ばたこうとするのをしばっているようなもの。

子育ては大変。でもいつかこの子の親になってよかったと思う日が絶対来るから子育てを楽しんで。

がんになって若くして親より先に死ぬことがわかった時たった一人でウエディングドレスを着て写真を撮った人がいる。彼女が亡くなってから見つけたこの笑顔っぱいの写真を両親は今も毎朝眺めている。

病気と一緒に子どもを授かった人がいる。長くは生きられないとわかっていた母は自分がいなくなっても構わないように小さな子どもに家事やみそ汁の作り方を教え亡くなった。

たくさんの涙を流しながら色々な人がお話を一生懸命聞いていました。今まだ私たちにできることがあると思えました。講演会には親や子どもに関わる人や地域の方々も参加されました。命ある限り生きていつかは目の前の子とわかる日が来ます。だからこそ今一緒に過ごす時間を楽しんで過ごしたいと思えました。ありがとうございました。



だい ごう
ステーションニュース 第50号

ねん がつはっこう きぼう いえか とりっくほいくえん
2022年 9月発行 希望の家カトリック保育園



京都市に於いては、身近な地域における相談・ネットワークの拠点として、保育所や児童館が「地域子育て支援ステーション」に指定されています。子育て相談や子育て講座、育児に関する情報提供など、子育て中の家庭に気軽に利用していただける取組を行っています。今回は「子どもの命が輝くために」助産師として長年多くの母子と関わってこられた内田美智子先生をお迎えしてお話を聞くことができました。

ほいくほうしん とも い よろこ たぶんかきょうせいほいく
* 保育方針 「共に生きる喜び—多文化共生保育」

ほいくじかん あさ じ ぶん よる じ ぶん
* 保育時間 朝7時20分～夜7時20分

ほいくねんれい さいじ さんきゆうあ さいじ しゅうがくまえ
* 保育年令 0才児(産休明け)～5才児(就学前)



きょうとしみなみくひがしくじょうひがしいわもとまち
〒601-8006 京都市南区東九条東岩本町28

TEL 075-681-6881 FAX 075-691-9581

<https://www.kyoto-kibounoie.jp/>